

日高の軽種馬育成調教場は6月後半から8月の間、開場時間を1時間早めるマータイムを導入しました。夏時間の有効活用として、利用者の方々からも好評でした。また、屋内トラック馬場前の準備馬場の走路拡幅及び柵の設置、1200直線砂馬場のスタート地点に練習用ゲートの設置、屋内直線馬場走路のウッドチップの補充等を行い、利用馬及び利用者の安全性・利便性の向上に努めております。

当センター研修生も入講して半年が経ち、研修も順調に推移し、広大な調教場での騎乗訓練を満喫しているようです。7月には地元の草競馬(浦河競馬祭)に自分達で調教した馬を出場させ、予選・決勝とも入賞を果たし、皆我がことのように喜んでおりました。8月には民間牧場での牧場実習で生の仕事を体験し、9月からは若馬の初期馴致実習も始まり、日増しに成長していく今日この頃です。(Y.H.)

「たづな」欄は、わが国のウマの繁殖生理学の研究を長期間行ってこられ、国際的にも著名な東京農工大学農学部の中谷一善教授にウマの繁殖について語っていただきました。研究成果はこれまでも広くわが国のウマの生産性の向上に役立っており、非常に参考になると思われます。

「サイエンティストからの提言」欄は、馬の栄養についての研究者であるJRA日高育成牧場生産育成研究室の松井 朗主査に、馬の栄養に関する研究内容を分かりやすく解説いただきました。馬が強くかつ速く走るためには日頃の栄養管理は大変重要ですので大いに参考にしてください。

「調査研究」欄は、馬の便秘症に対するクエン酸モサブリド経口投与の臨床検討ということで、掲載いたしました。便秘症の治療にモサブリドの経口投与は有効であると考えられます。

今号では、本年4月に開講された育成調教技術者養成研修の第25期生のうちから5名の皆さんに3ヶ月経過した時点における研修の現状についての記事を執筆していただきました。育成期の馬に対して関心の高い若い皆さん方の参考になれば幸いです。(T.Y.)